

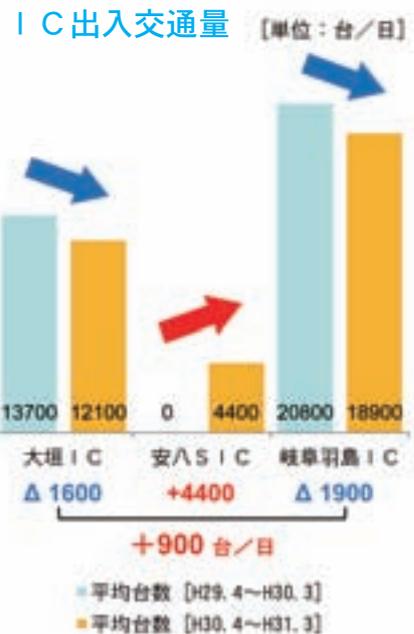
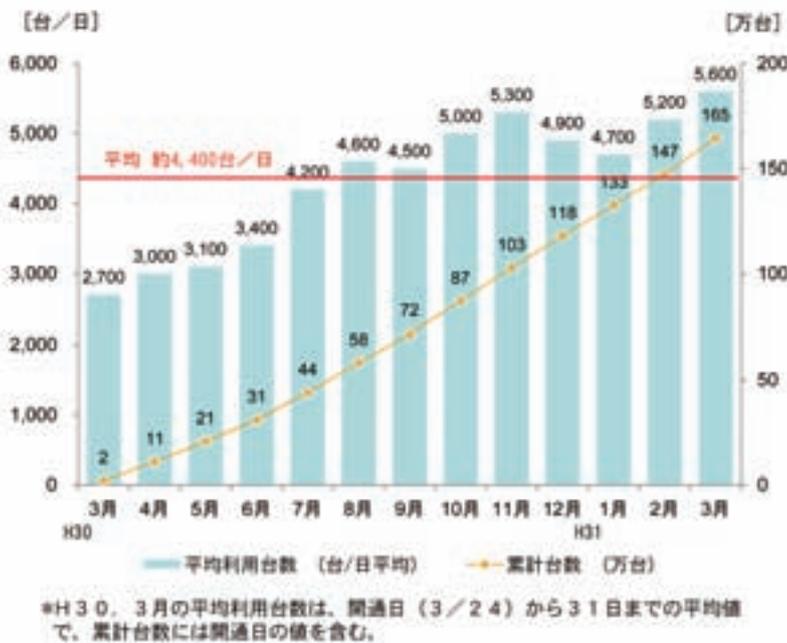
安八スマートインターチェンジ（S I C）利用状況及び整備効果

5月22日（水）第6回目の安八S I C地区協議会が開催され、開通後1年の利用状況及び整備効果が報告されました。

同協議会は、安八S I Cを設置するため必要となる事項について調査・検討し、供用開始後も安全性、採算性、管理・運営方法等について定期的にフォローアップすることを目的に、安八町長をはじめ、国や県、関係機関、関係市町の長等で組織されています。



- 開通後、1年間（平成30年4月～平成31年3月）の平均利用台数は約4,400台/日
- 平成30年11月に累計利用台数が100万台を超え、平成31年3月末の累計利用台数は165万台
- 前後のI C区間の利用台数は、S I C整備前後で約900台/日増加。また、I C利用の分散化が図られました。



- ①高速道路の利便性向上による企業進出の促進、新規雇用の創出
平成19年にS I C整備構想（安八町第4次総合計画）が立ち上がって以来、安八町では16社の新規企業進出（平成31年3月28日時点）があり、今後S I C周辺への更なる企業誘致の促進を図ります。
 - ②高速道路へのアクセス性向上による揖斐川・長良川渡河部の交通分散
揖斐川・長良川渡河部の渋滞箇所を回避して町内へのアクセスが可能となり、周辺企業から最寄りのI Cまでの所要時間は、大垣I Cへ約11分、岐阜羽島I Cへ約7分の短縮が図られました。
 - ③S I C設置による災害や緊急時における緊急避難経路の確保
 - ・災害・緊急時における救助隊、救助車両及び救援物資を高速道路から長良川・揖斐川を渡らずに直接防災拠点施設への受入れ、搬入可能な新たな経路が確保されました。
 - ・S I Cとアクセス道路の一部が緊急輸送道路（岐阜県緊急輸送道路ネットワーク）に指定されました。
- [平成31年3月]